セントラルケンタッキー日本人補習校　　令和６年（2024）１月 20 日

ＣＫＪＳだより

第 75 号

校長　松平　昭二
shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

自分を好きになること

子どもたちが、生きる希望を見出し、スランプから抜け出し、様々な壁を乗り越えていく一番中心的なきっかけは、「自分を好きになる」ことだと私は思います。

私たちは、どんなに自暴自棄にある子に対してでも、全力を挙げて「自分を好きになる」手助けをしてやらなければいけません。そのような子に対しては、「こんなことでいいのか。君は輝くために生まれてきたんだよ！」という、本当に飽きることなく繰り返される叱責や励ましが必要です。その姿勢が、やがて子どもたちが“役に立つ自分”を発見し、立ち直る原因となっていくのです。

大人の大切な役目は、子どもたちに「自分を好きにさせる」ことだと私は思います。子どもたちは「やった！」という言葉が好きです。部活動の大会で勝ったとき、試験でいい点数が取れたとき、また、身体測定のときでも、身長の伸びた子があちこちで「やった！」と言っています。

自分にもこんなことができたのかという新しい自分の発見、自分もまんざらではないという実感、自分が大きくなったという手ごたえ……。子どもたちにとって、こんな嬉しいものはないのです。

それに加えて、親や教師、周りの人々の「よくやったね！」の一言が添えられれば、子どもたちの心に喜びがエコーのように広がります。そして、それは子どもたちを前に進めるエンジンなのです。

私たち大人は、全力を挙げて子どもたちの「自分発見」に手を貸してやり、「やった！」という喜びを共有して、子どもたちにそのエンジンがかかるようにしてやりたいものです。

今週は本当に寒い日が続き、現地校も休校になりました。残念ながら、本校でも本日オンライン授業となりました。ご理解のほどよろしくお願いします。